

きつもと商事、油圧ショベルを導入 扱い数量の増加に注力

(大阪) 金属スクラップディーラーのきつもと商事(本社=大阪府貝塚市、橋本翼社長)は10月29日、新たに油圧ショベルで住友建機製SH120旋回式フォークロー仕様を導入した。同機は本社のヤード内で、スクラップの荷降ろしや積み込みなどに活用していく予定だ。

同社は工場発生に由来する非鉄スクラップを中心に扱っており、引き取りに行った非鉄スクラップはそのまま同業社に出荷している。一方、本社への持ち込みが少なく、また持ち込みに対応できる設備も不十分だったこともあり、持ち込みに関する問い合わせは断っていた。そのため、こうした機会損失などの課題を解消する目的で油圧ショベルの導入を決めた。

導入について橋本社長は「持ち込みに対応できるので、既存顧客へのサービスの強化が図れるだけでなく、新規顧客の獲得につながることもできる。また、積み降ろし作業ができるのでスクラップをストックすることも可能となった。この強みを生かし、扱い数量の増加に注力したい」と話している。

同社はこのほか、ホームページやSNSを通じて情報発信を行っている。今後はスクラップの価格も公表する予定で、広報にも注力する方針を示している。



導入した油圧ショベル